〔報告者〕

○藤井　美香（ふじい　みか）

公益財団法人横浜市国際交流協会

多文化共生推進課シニアコーディネーター

＜プロフィール＞

平成 27 年度地域日本語教育コーディネーター研修（東日本）を受講。
民間企業および留学団体を経て、当協会に就職。横浜市国際学生会館（留学生宿舎）で施設運営や交流事業に携わったのち、多文化共生業務に携わる。これまで、日本語学習支援事業のほか、外国人相談窓口、通訳ボランティア派遣、災害時対応などの業務に従事してきた。現在の関心事「コミュニケーションの場づくり」は、日本語学習支援に関わるようになったことがきっかけだと感じている。（一財）自治体国際化協会認定多文化共生マネージャー。

＜所属団体紹介＞

横浜市の外郭団体、総務省認定の地域国際化協会。
外国人が暮らしやすく社会参画しやすいまちづくりに向け 「多文化共生のまちづくりを支援する事業」「グローバル人材の育成を支援する事業」「国際協力・国際交流に関する施設を管理運営する事業」を市民とともに進めている。
市域での活動とともに、外国人が多く居住する３つの区において、国際交流ラウンジの運営を区役所から受託し、地域の国際交流・多文化共生の拠点として、多くの人々との連携のもとに活動を行っている。

＜活動内容＞

テーマ　日本語ボランティア研修会～外国人・日本人が一緒に作る日本語教室の試み

１．課　題

地域日本語教室の活動に、日本語学習者・学習経験者の経験や声をもっと反映させることはできないか。

２．課題解決のための方法と手順

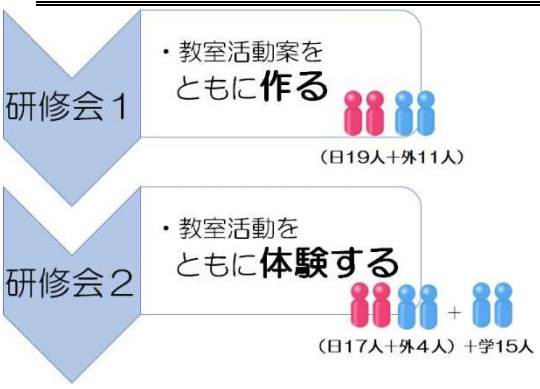
「多文化共生のまちづくり」を目指す教室の、一例を示す研修会を行う。

〈ねらい〉・日本語学習者（外国人）の学習経験や声を生かすことで、多様性を生かす教室づくりと、多文化コミュニケーションの実践を試みる。

・外国人が、持っている力をもっと発揮できる方法を試みる。

⇒体験を通じ「共に作る」「コミュニティとしての日本語教室」の必要性等を考え、地域の活動に生かすことを目指す。

- 日本語ボランティアと日本語学習経験のある外国人が協働して学ぶ研修会を、２段階で実施。



【研修会１】
外国人・日本人がお互いの経験を共有しながら、協働で日本語教室の活動案を作る。

【研修会２】
学習者の、日本語使用者としてのエンパワメントを目指す日本語教室を、ともに体験する。

- 企画・実施：地域日本語専門家、日本語学習経験者、当協会担当者で検討を重ねた。
- 参加者募集：地域日本語教室等に呼びかけ、協力を得た。

３．成　果

- 日本人・外国人がお互いから学び、具体的な教室活動のヒントが得られたこと。
- 学習者から「たくさん話せた」「自分の意見を伝えることができた」など、日本語で実際のコミュニケーションが取れて嬉しかった、自分が承認された、という声があった。
- 参加者の所属教室は 20 に及び、研修を通じて地域教室の交流が進んだこと。

４．今後の課題

研修での学びを実践したい人をいかに支え、また、日本語学習経験のある外国人等支援者のすそ野をいかに広げるか。当協会の既存事業「よこはま地域日本語実践もちより会」（所属教室を超えた支援者の実践共有の場）や「まちの日本語伴走隊」（地域教室へのアドバイザー派遣）等も活用しつつ取り組みたい。